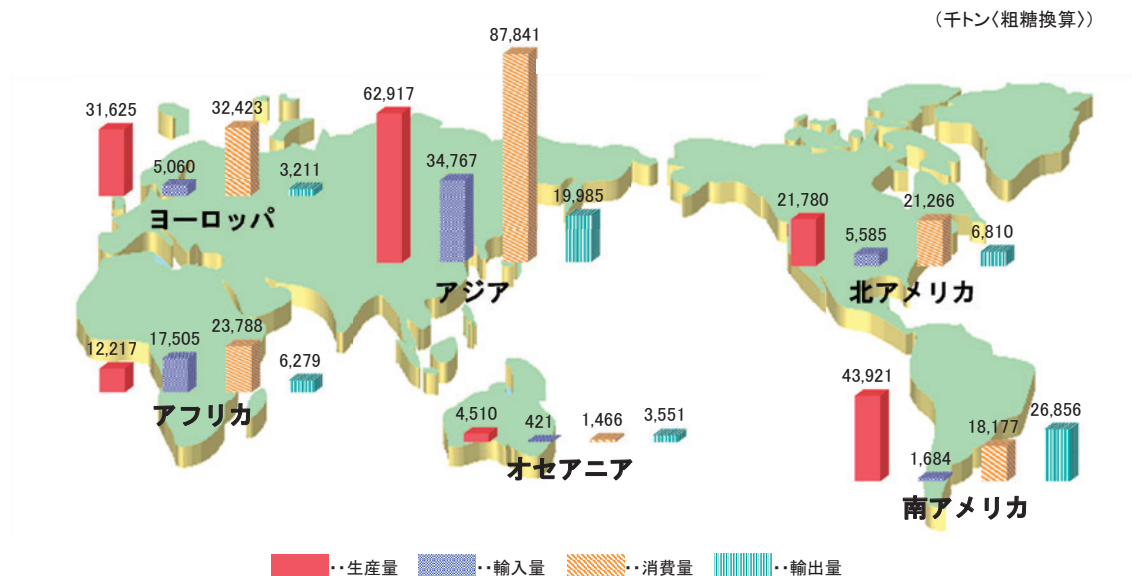


砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

1. 世界の砂糖需給（2020年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2019/20年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	54,982	160,315	56,023	164,751	56,244	50,324	30.5
2014/15	69,085	183,717	59,707	176,762	62,081	73,666	41.7
2015/16	73,666	175,955	67,776	178,700	69,077	69,620	39.0
2016/17	69,620	180,387	70,759	181,308	71,288	68,169	37.6
2017/18	68,169	195,693	65,866	180,494	67,771	81,462	45.1
2018/19	81,462	186,733	60,662	183,711	61,492	83,654	45.5
2019/20 (2019年12月予測)	81,791	179,248	63,056	185,535	64,856	73,704	39.7
2019/20 (2020年3月予測)	83,654	176,970	65,022	184,961	66,692	73,994	40.0

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度以降は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっているので、次回は2020年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2020年4月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002173.html

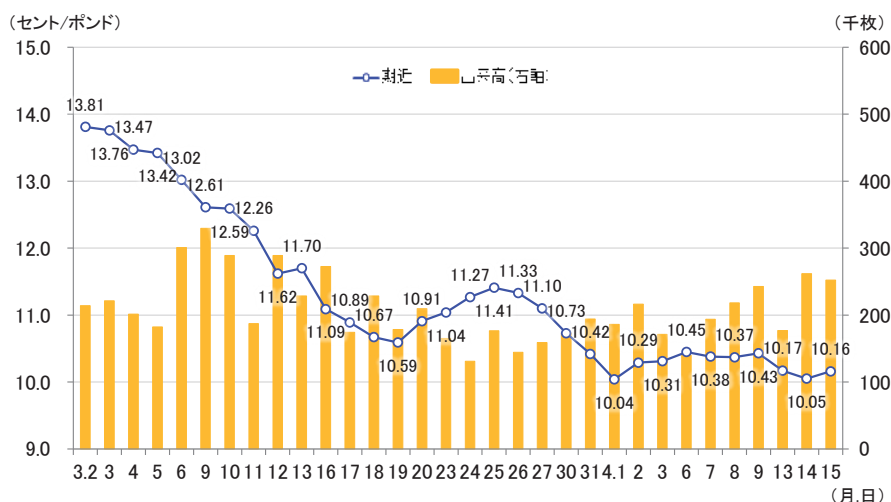
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002174.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（3/2～4/15）

～1カ月で3セント以上値下がりし、2018年9月以来の安値水準～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近5月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年3月の推移を見ると（5月限^{がつり}）、為替市場においてブラジルの通貨レアルを売って米ドルを買う動きが先行したことや^{（注1）}、ブラジル経済省が公表した2月の貿易統計で前年同月を上回る砂糖輸出力が示されたことなどを^{（注2）}受け、2日は1ポンド当たり13.81セントと約2カ月ぶりに13セント台の値を付けた（図2）。サウジアラビアなどで構成される石油輸出国機構（OPEC）とロシアなどの産油国との間で、協調減産をめぐる交渉が6日に決裂したことを受けて原油価格が急落したことに伴い、9日は同12.61セントと13セントを割り込んだ^{（注3）}。その後も、レアルが対米ドルで最安値を更新し、原油価格が一段と下落したことで、12日は同11.62セントと約半年ぶりの安値水準となった。13日に若干値を戻したものの、週明けの16日は再び下げに転じ同11.09セントまで値を下げた。欧米などで新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が急速に拡大したことで金融・商品市場全体に不安が広がったことも相まって

価格が下げ止まらず、19日は同10.59セントの値を付けた。20日以降は原油価格が下げ止まったことなどから値を戻す展開となり、25日は同11.41セントまで回復した。しかし、原油価格の下落とレアル安に連動して26日から下げに転じ、31日は同10.42セントまで値を下げた。

4月1日はさらに下げ幅を広げ、同10.04セントと2018年9月以来の安値水準まで値を下げた。2日は反発し、同10.29セントとなった。その後は、COVID-19の拡大を防ぐため世界各地で外出制限などの厳しい措置が実施される中、事態の長期化も予想され、外食や行楽の機会が減少することで砂糖消費が伸び悩むとの見方が重荷となり、横ばいで推移している。12日に主要産油国が協調減産することに合意したが、原油価格を大きく押し上げるに至らなかったことから、13日は同10.17セントまで値を下げた。14日は同10.05セントとさらに値を下げ、15日は同10.16セントとなった。

- (注1) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが安くなると、ブラジル産粗糖の価格競争力が強まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まれば、需給の緩みにつながることから、価格を押し下げる方向に作用する。
- (注2) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。
- (注3) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要は低下する。バイオエタノールの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減るため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えることが想定される。その度合いが大きければ、需給の緩みにつながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

オエタノールの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減るため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えることが想定される。その度合いが大きければ、需給の緩みにつながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年4月時点予測）

ブラジル

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：851万ha（前年度比0.9%減）

生産量：6億5100万トン（同1.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4196万トン（同32.2%増）

輸出量：3213万トン（同57.8%増）

2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に増加する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年4月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、砂糖の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要の減退懸念が広がりつつあるものの、バイオ燃料などの再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」が本格始動することで生産意欲を後押しする可能性があることも踏まえ、2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は851万ヘクタール（前年度比0.9%減）と横ばいで推移すると見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億5100万トン（同1.5%増）とわずかに増加すると見込まれる。

バイオエタノール需要の減退懸念などを受け、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰する動きが見られる

ことから、砂糖生産量は4196万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）同32.2%増）と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジルの通貨レアルが米ドルに対して安値圏で推移することで、輸出意欲を刺激することとも相まって、輸出量は3213万トン（同57.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。

燃料配給業者、バイオエタノールの調達を控える動き

2019/20年度のバイオエタノール生産量は史上最高の338億リットルに達する見込みとなる中、原油価格の急落に伴い価格優位性が低下した影響で、バイオエタノールの需要は急速に冷え込んでいる。

現地報道によると、自動車燃料などを販売するブラジルの大手燃料配給業者2社は、国内外へのバイオエタノールの供給がだぶつき、貯蔵タンクの容量がひっ迫する恐れがあるとして、製糖業者からのバイオエタノールの調達を見合わせる可能性を示唆し

た。これに対し、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）は4月1日、ホームページを通じて「バイオエタノールの販売が制限されれば、製糖業者だけでなく、サトウキビ生産者をはじめとするさまざまな産業が打撃を受ける」とコメントを出し、燃料配給業者に対し契約に従って適切に取引を行うよう求めた。

需要減などによりオーガニックシュガーの在庫が積み上がる

ブラジル農務省（MAPA）が3月12日に発表した2019/20年度の砂糖の生産状況報告によると、3月1日時点での砂糖生産量は前年同期と比べ57万トン多い2943万トン（前年同期比2.0%増）とわずかに増加した。糖種別に見ると、同国で最も多

く生産され、輸出が主の粗糖（Very high polarity raw sugar^(注)）は同2.0%減と前年度を下回る一方、国内消費にも仕向けられる白糖は同9.8%増とかなりの程度増加した。また、オーガニックシュガーは、過去最高の生産量を記録した前年度を上回る24万7000トン（同4.5%増）となった。

同国は、オーガニックシュガーの生産量の約9割を輸出に仕向けているが、価格面で優位にあるコロンビアやパラグアイなどが輸出量を伸ばす一方、有機食品市場の拡大をけん引してきた欧米からの引き合いが鈍化し、2月末時点でのオーガニックシュガーの在庫量は生産量の半分に相当する12万5000トンに達している。

（注）MAPAによると、糖度99度を超える粗糖を指す。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

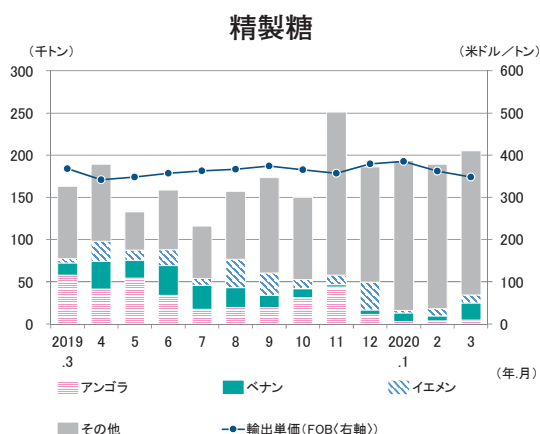
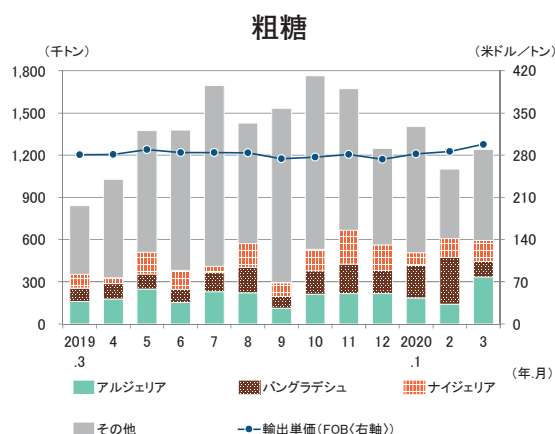
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,617	8,649	8,587	8,510	▲ 0.9
サトウキビ生産量	641,066	620,825	641,100	651,000	1.5
砂糖	生産量	41,517	31,225	41,958	32.2
	輸入量	2	3	3	0.0
	消費量	10,852	10,635	10,479	▲ 1.5
	輸出量	31,026	20,969	32,125	57.8
	期末在庫量	663	287	1,023	▲ 62.8
	期末在庫率	1.6	0.9	3.3	2.4 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：461万ha（前年度比10.5%減）

生産量：3億5937万トン（同12.6%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2879万トン（同19.6%減）

輸出量：547万トン（同0.5%減）

2019/20年度、砂糖生産量、輸出量ともに減少する見込み

サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州で発生した長雨による大規模な圃場の浸水被害などが影響し、2019/20年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は461万ヘクタール（前年度比10.5%減）とかなりの程度減少し、サトウキビ生産量は3億5937万トン（同12.6%減）とかなり大きく減少すると見込まれる（表3）。

サトウキビの減産や生育不良によるサトウキビの糖度低下の影響に加え、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大防止をめぐる対応で物流の混乱が見られる（後述）ことも考慮すると、砂糖生産量は2879万トン（同19.6%減）と大幅に減少すると見込まれる。これらのあおりを受け、輸出量は547万トン（同0.5%減）と前月の増加予測から一転して減少すると見込まれる。

砂糖600万トンの輸出目標、達成はかなり厳しい状況

インド政府は、COVID-19の拡大防止のため3月25日から21日間にわたる全国的な都市封鎖に踏み切った。これに伴い物流が滞り、製糖業者ではろ過の工程で用いられる石灰などの資材が調達しにくくなっており、砂糖生産の調整または縮小の動きが出ている。また、港湾業者においては、多くの従業員が出社できず人手不足に陥っており、貨物の船積み作業に遅延が生じたり、船舶の運航を取り止めたりする事例が相次いでいる。

インドネシアでは、国内の砂糖需要の増加を背景に6月までにインドから合計13万トン輸入する計画を示していたが、インドの現状を踏まえ、輸入業者の多くが輸入相手国をタイもしくは豪州に切り替えることを検討し始めている。

これらにより、2019/20年度にインド政府が定めた「砂糖輸出量600トン」の目標達成はかなり厳しい状況となっている。

表3 インドの砂糖需給の推移

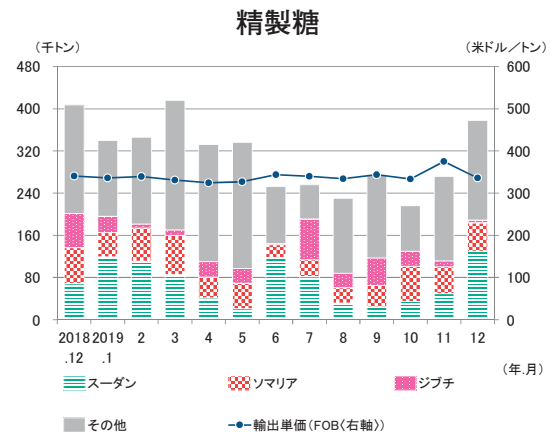
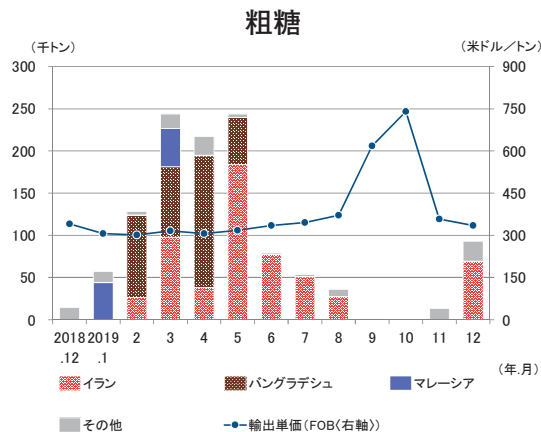
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (3月予測)	2019/20 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		4,327	4,826	5,148	4,628	4,606	▲ 10.5
サトウキビ生産量		323,556	410,221	411,316	358,514	359,365	▲ 12.6
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,798	29,329	28,790	▲ 19.6
	輸入量	2,536	2,307	646	850	850	31.6
	消費量	26,568	27,232	27,537	28,086	27,186	▲ 1.3
	輸出量	2,233	2,361	5,504	6,250	5,474	▲ 0.5
	期末在庫量	3,952	11,710	15,115	10,957	12,094	▲ 20.0
	期末在庫率	13.7	39.6	45.7	31.9	37.0	8.7ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料:「Global Trade Atlas」

注1:HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2:国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積:118万ha(前年度比3.5%減)

生産量:7769万トン(同1.1%減)

【てん菜】

収穫面積:21万ha(同12.4%減)

生産量:1090万トン(同6.6%減)

【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量:1103万トン(同5.2%減)

輸入量:449万トン(同7.1%減)

2019/20年度、輸入量はかなりの程度減少する見込み

2019/20年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール(前年度比3.5%減)とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが見られるものの、収穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7769万トン(同1.1%減)とわずかに減少すると見込まれる(表4)。てん菜の主産地である内モンゴル自治区でヨトウムシなどによる害虫被害が発生したことから、てん菜の収穫面積は21万ヘクタール(同12.4%減)とかなり大きく減少すると見込まれる。生育期間を通じておおむね天候に恵まれ、てん菜の根中糖分は前年度を上回って推移しているものの、収穫面積の減少分を補うに至らず、てん菜生産量は1090万トン(同6.6%減)とかな

りの程度減少すると見込まれる。

これに伴い、砂糖生産量は1103万トン(同5.2%減)とやや減少し、消費量の減少に伴い輸入量は449万トン(同7.1%減)とかなりの程度減少すると見込まれる。

中国農業農村部、新型コロナウイルス感染症の砂糖需要への影響なしとの見方

中国農業農村部(日本の農林水産省に相当する政府機関)は4月9日、2019/20年度の砂糖の需給見通しを公表した。砂糖生産量は前年度比3.3%減と予想し、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が発生する前の11月時点と比べ3ポイント下方修正した(表5)。要因として、COVID-19の拡大により物流が混乱し、製糖工場の一部で操業停止を余儀なくされたことなどを挙げた。

一方、国内の各都市で外出を厳しく制限し、飲食店の営業休止などが行われてきたものの、同部では砂糖消費量について、11月時点と変わらず横ばいで推移すると予測している。また、輸入量も同6.2%減の従来予測を据え置いている。砂糖生産量の減少によって砂糖の需給ギャップはさらに広がる

とみられる。

なお、中国糖業協会によると、2019年10月から翌3月までの全国の砂糖販売量は前年同期比0.9%減の981万2000トンと横ばいで推移しており、こちらの統計でもCOVID-19による砂糖の需要面への影響はほとんど受けていないことが示された。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (3月予測)	2019/20 (4月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積		1,178	1,231	1,219	1,176	1,176	▲ 3.5
サトウキビ生産量		73,690	76,780	78,590	77,690	77,690	▲ 1.1
てん菜収穫面積		168	186	243	213	213	▲ 12.4
てん菜生産量		8,820	9,590	11,670	10,900	10,900	▲ 6.6
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	11,033	11,033	▲ 5.2
	輸入量	5,715	6,118	4,830	4,971	4,488	▲ 7.1
	消費量	16,847	16,414	16,522	16,305	15,822	▲ 4.2
	輸出量	146	195	228	196	196	▲ 14.1
	期末在庫量	10,689	11,345	11,064	10,567	10,567	▲ 4.5
	期末在庫率	62.9	68.3	66.1	64.0	66.0	0.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

表5 中国の砂糖の需給見通し

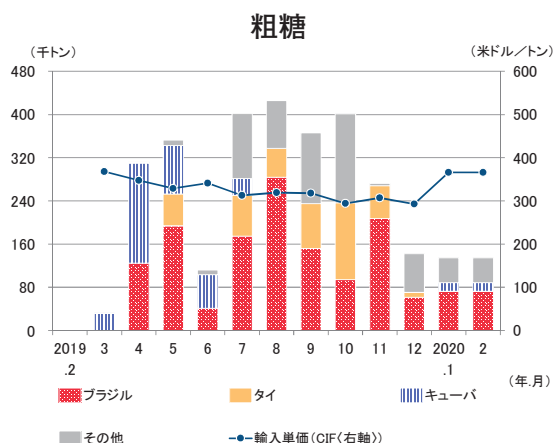
(単位：万トン)

	2018/ 19年度	2019/20年度			
		11月予測	前年度比	4月予測	前年度比
生産量	1,076	1,062	▲ 1.3	1,040	▲ 3.3
輸入量	324	304	▲ 6.2	304	▲ 6.2
消費量	1,520	1,520	—	1,520	—
輸出量	19	18	▲ 5.3	18	▲ 5.3

資料：中国農業農村部

注：2018/19年度の数値は見込み、2019/20年度の数値は予測値である。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

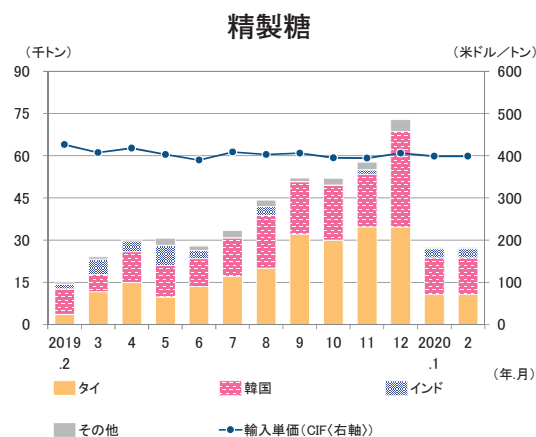


資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。



E U・英国

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：162万ha（前年度比5.5%減）
生産量：1億1459万トン（同3.3%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1821万トン（同0.2%減）
輸出量：103万トン（同45.9%減）

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は162万ヘクタール（前年度比5.5%減）とやや減少すると見込まれる（表6）。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で1億1459万トン（同3.3%増）とやや増加すると見込まれる。

平年より高温・乾燥した状況が続いたEU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜の根中糖分の低下などが響き、砂糖生産量は1821万トン（同0.2%減）と横ばいで推移すると見込まれる。生産量が消費量を下回ると予想されることから、輸出量は103万トン（同45.9%減）と大幅に減少すると見込まれる。

てん菜生産者団体、欧州委員会に救済措置を求める

欧州てん菜生産者協会（CIBE）は4月7日、ホームページ上に「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響」と題した報告書を公開した。この報告書の中でCIBEは、「EUの各都市で外出禁止など私権制限を伴う都市封鎖が実施されたことによって、砂糖の家庭消費が増加していると考えられるが、砂糖消費のかなりの割合を占める飲食店やホテルなどの業務用需要の落ち込みが著しく、マイナスの影響が出てきている」と指摘した。その影響度合いについて、業界関係者の話として「EUの砂糖消費量は70万トンまたは当初予測から4%減る」との見方を示した。

また、砂糖の国際価格が大きく下落したことで、EU域内に安価な海外産の粗糖が大量に流入する恐れがあり、今後EU域内で生産されるてん菜を原料とする砂糖の適正な価格水準を維持することが難しくなるとみている。

CIBEはこうした現状を踏まえ、欧州委員会に対し緊急輸入制限措置を含めた何らかの救済措置を早急に講じるよう求めた。

ポーランドの「砂糖税」、適用時期をめぐる混乱

ポーランド政府が提出した、糖類を含む飲料に課税するいわゆる「砂糖税」の導入を盛り込んだ健康増進法案^{（注）}は3月13日、野党が過半を占める上院で否決された。ただし、法案は下院で再可決される見通しで、大統領が署名すれば法律として成立する。

こうした中、法律の適用時期をめぐる混乱が生じている。当初、2020年7月1日から適用される予定であったが、COVID-19の拡大による経済への影響を考慮し、同国政府はこの法案の適用時期を2021年まで延期する方針を示していた。しかし、現地報道によると、その方法について政府内で未だ本格的な議論がなされておらず、時間切れによって結局、7月1日から適用される可能性があるとしている。

これに対して、飲料業界は「COVID-19の拡大で飲料需要が落ち込む中、新たな税負担が加わり、二重の打撃となる」と訴え、適用時期の延期を求める署名活動を展開するなど猛反発している。

(注) 具体的な税額などの内容は、「砂糖の国際需給－
4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向
(2020年3月時点予測)－」『砂糖類・でん粉情報』

2020年4月号を参照。https://www.alic.go.jp/
joho-s/joho07_002177.html

表6 EU・英国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

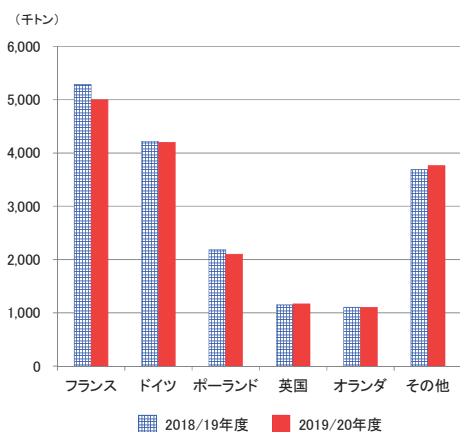
年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (3月予測)	2019/20 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,466	1,731	1,709	1,612	1,615	▲ 5.5
てん菜生産量	107,986	139,453	110,972	114,656	114,585	3.3
砂糖	生産量	17,069	21,734	17,936	18,206	▲ 0.2
	輸入量	3,117	1,731	2,657	2,664	5.3
	消費量	19,177	19,218	19,522	18,990	▲ 3.4
	輸出量	1,510	3,809	1,071	1,033	▲ 45.9
	期末在庫量	2,210	2,648	1,986	2,713	45.4
	期末在庫率	10.7	11.5	8.6	13.5	4.9ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EU・英国の主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年12月時点)

EU・英国の砂糖生産見通し

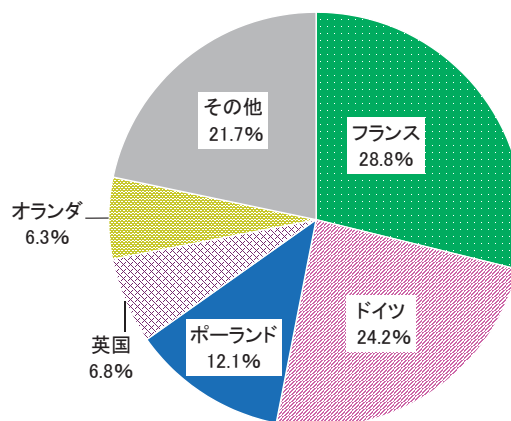


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2018/19年度は暫定値、2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会

注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2020年4月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、南アフリカおよびフィリピンの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（南アフリカは3月号および10月号、フィリピンは4月号および9月号を予定）。

豪 州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）

生産量：3090万トン（同2.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：433万トン（同1.1%増）

輸出量：332万トン（同0.1%減）

2020/21年度、砂糖生産量はわずかに増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、記録的な猛暑と少雨に見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3090万トン（同2.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、433万トン（同1.1%増）とわずかに増加すると見込まれる。砂糖の国際価格の低迷で輸出が鈍る可能性もあるが、インドの輸出の落ち込み^(注)に伴い代替調達先としての恩恵を受けるとみられることから、輸出量は332万トン（同0.1%減）と横ばいで推移すると見込まれる。

(注) 本誌「砂糖の国際需給－3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年4月時点予測）－」のインドの項を参照。

クイーンズランド州の生産者団体、州政府に対し電気料金の引き下げを求める

クイーンズランド州のサトウキビ生産者が組織する団体CANEGROWERSは4月2日、クイーンズランド州政府に対し、農業用施設などに設定されている電気料金の引き下げを求める声明を発表した。これは、近年、少雨傾向が続き、干ばつリスクが高まったことを受け、同州ではかんがい設備の整備が進んだものの、高止まりした電気料金が農業経営を圧迫するようになってきたことが背景にある。加えて、同州政府は、電気料金を現状より5%安くする検討を始めたが、その対象が家庭用や中小事業者の施設に限られ、農業用施設が対象から外れたことも、サトウキビ生産者の不満を招いた。

同団体は、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大する中であっても、われわれは日々懸命に働き、安定的な食料供給に貢献している」と主張し、生産継続の支障となっている電気料金を一刻も早く引き下げるよう強く求めた。

表7 豪州の砂糖需給の推移

(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	376	379	364	361	▲ 1.0
サトウキビ生産量	33,344	32,493	30,044	30,901	2.9
砂糖	生産量	4,463	4,717	4,328	1.1
	輸入量	29	19	58	190.0
	消費量	1,112	1,068	1,064	▲ 0.8
	輸出量	3,601	3,426	3,324	▲ 0.1
	期末在庫量	747	989	891	▲ 0.1
	期末在庫率	15.8	22.0	20.3	0.0 ポイント

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2020」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2019/20年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 156万ha (前年度比15.0%減)

生産量: 7500万トン (同42.7%減)

【砂糖 (甘しや糖)】

生産量: 879万トン (同43.1%減)

輸出量: 856万トン (同18.0%減)

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20年度 (10月～翌9月) のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作が活発化したことで、156万ヘクタール (前年度比15.0%減) とかなり大きく減少すると見込まれている (表8)。加えて、2019年初頭の降雨量が少なく、サトウキビの生育が停滞していることから、サトウキビ生産量は7500万トン (同42.7%減) と大幅に減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は879万トン (同43.1%減) と大幅に減少すると見込まれる。砂糖の減産に伴い、輸出量は856万トン (同18.0%減) と大幅に減少すると見込まれる。

タイ首相、夜間外出禁止令ー砂糖の物流に影響なし

タイのプラユット・ジャンオーチャー首相は4月2日、4月3日から当面の間、全土を対象に午後10時から翌午前4時までの外出を禁止すると発表

した。農産物、医薬品などの生活必需品や貿易貨物などの輸送に従事する者はこの対象から除外されるものの、夜間の外出の必要性を証明する書類の携行が義務付けられた。

現地報道によると、発令されてから1週間が経過した4月10日現在、一部では事務員の不足などにより日常的な手続きが滞っているというが、国内の物流網に大きな影響は出ていない。製糖業者においては、今期の操業は3月末ですでに終了していることから、今回の措置による砂糖生産への影響は皆無で、砂糖の流通にも支障が出ていないとみられる。ただし、飲食店の営業は前月から制限され、タイの観光スポットの一つでもある屋台も休業・営業短縮を余儀なくされており、これらの制約による同国の砂糖消費への影響について注視する必要がある。

表8 タイの砂糖需給の推移

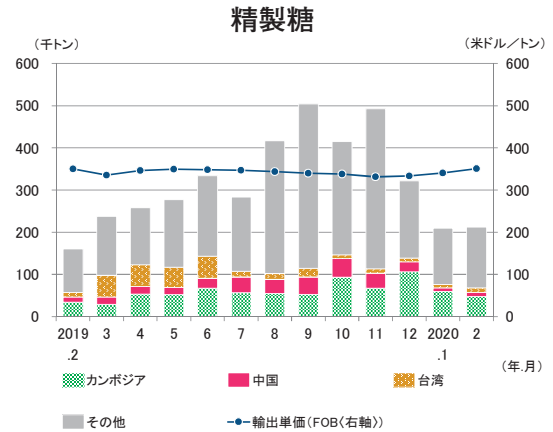
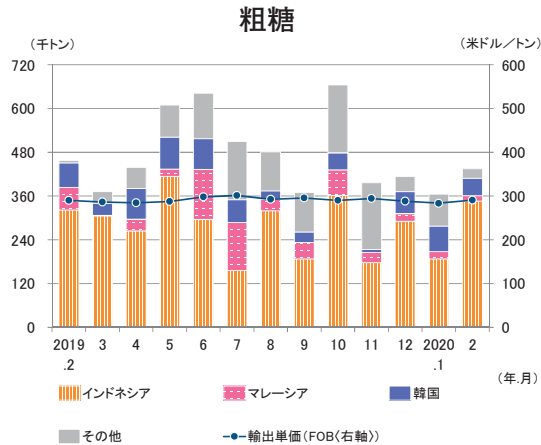
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (3月予測)	2019/20 (4月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,578	1,790	1,835	1,560	1,560	▲ 15.0
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	74,014	75,000	▲ 42.7
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	8,680	▲ 43.1
	輸入量	0	6	3	3	0.0
	消費量	3,283	3,347	3,737	3,866	0.8
	輸出量	7,393	10,077	10,439	8,342	▲ 18.0
	期末在庫量	3,951	6,119	7,402	3,876	▲ 47.6
	期末在庫率	37.0	45.6	52.2	31.7	20.8ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。